

Cantabile

2011. March

Vol. 6

発行

山形県音楽教育連盟
山形県小中学校教育研究会音楽部会

発行日

平成23年 3月31日

庄内地区



村山地区



置賜地区



最上地区



平成二十四年度
県・東北大会に向けて

新会長 渋谷 滋 己

「いっしょに音楽、もっと音楽、ずっと音楽」のテーマ(願い)のもと、研究がスタートしました。

新学習指導要領改善の具体的事項に示されたキーワードに当てはめて考えると、「いっしょに」には、「協同する喜び」、「もっと」は、「思いや意図を持って、根拠を持って自分なりに」、「ずっと」は、「生涯にわたって音楽文化を愛好する態度」にあたるのではないだろうか。

サブテーマには、展開される授業像として、次のような願いが込められています。

「音楽のいのち」には、教材の持っている特性や良さを活かし、子ども達の実態を踏まえた教材研究の上に立った単元構成を仕組む。

「まなび」には、単に楽しかっただけでなく、共通事項等を手掛かりに、思いや良さを出し合って、音楽の命を実感するような主体的な授業を展開する。

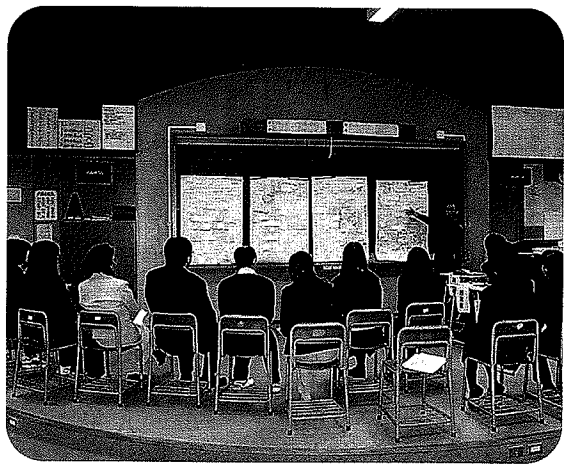
「かわり」には、教師と生徒・生徒同士・地域や背景となる文化等のかかわりを大切にする。

形は整い始めていますが、中身はこれからです。

これをきっかけに、我々教師自身の意識と授業の質が高まり、児童生徒の表現力が伸び、置賜地区の音楽教育が活性化し、さらに、山形県の音楽活動が、益々伸びて行く事を願うばかりです。

この機会を大いに利用していきたいと思っています。

今後も、他地区の方々にもご指導をいただくこととなりますので、その際は、快くご協力をお願い申し上げます。



歌と鍵盤ハーモニカの音の重なりを感じ取り、演奏の工夫をねらいとした一年生の授業を石川綾先生に公開していただきました。歌と鍵盤ハーモニカのグルーブに分かれ、いっしょに「とんくるりんぱんくるりん」を演奏するとき、どんなことに気をつければよいかを考えさせました。児童から「どならないで歌う」「鍵盤ハーモニカの音量を下げる。」などの工夫が出され、最後の発表会では、相手の音をよくききながら、合わせて演奏しようとする高まりが感じられました。

庄内地区

【小学校】
期日 平成二十二年十一月二十五日(木)
会場 酒田市立西荒瀬小学校
内容 小学校授業研究協議会
・題材名「みんなであわせよう」
・友達の声や楽器の音をききながら
みんな演奏しよう
歌と鍵盤ハーモニカの音の重なりを感じ取り、演奏の工夫をねらいとした一年生の授業を石川綾先生に公開していただきました。歌と鍵盤ハーモニカのグルーブに分かれ、いっしょに「とんくるりんぱんくるりん」を演奏するとき、どんなことに気をつければよいかを考えさせました。児童から「どならないで歌う」「鍵盤ハーモニカの音量を下げる。」などの工夫が出され、最後の発表会では、相手の音をよくききながら、合わせて演奏しようとする高まりが感じられました。

村山地区

【小学校】
期日 平成二十二年十一月十八日(木)
会場 山形市江南公民館
内容 実践発表
(1) 山形市立千歳小学校 栗原朋子教諭
・「タヤけこやけ」の物語を作り、音やセリフを入れる活動の実践。
(2) 河北町立谷地南部小学校 土田久子教諭
・リズム遊びをしながら音楽の楽しさを感じさせる指導の実践。
(3) 山辺町立山辺小学校 黒田百合子教諭
・音のイメージを言語化することで思考を深める活動の実践。
(4) 上山市立南小学校 富田俊子教諭
・オリジナルお囃子づくりの実践。
講演
「新しい学習指導要領をふまえた授業づくりのポイント」
○講師 県教育センター 須藤真指導主事に指導のポイントや児童生徒の視点を明確にし絞り込むことで「確かな学び」へつなげる。
・音楽づくりにおいて、イメージからだけ迫ると効果音的になりがちで、そこから発展できない。音楽的な思いや意図を持たせることが大切。
・評価が一部変更になる。「音楽的な感受や表現の工夫」
・音楽表現の創意工夫(表現領域のみ)鑑賞の音楽的感受は「鑑賞の能力」と一緒になる。

【中学校】
期日 平成二十二年十一月十七日(水)
会場 山形大学附属中学校
内容 実践発表
(1) 山形市立第四中学校 須藤由美子教諭
・「ひきつける授業をめざして」
・ねらいをしっかりとった教材選択
(2) 寒河江市立陵南中学校 大宮裕一教諭
・「学びあいを重視した授業実践」
(3) 中山町立中山中学校 武田裕子教諭
・「創作の楽しさ」
・学年テーマ曲を作ろう
助言指導
山形市立第三中学校 原田英紀校長
・教師がその授業の中で何を教えなければならぬのか、そのためにどんな教材をどのように工夫して扱うのかを吟味することが重要である。決してなんとなくの授業になつてはならない。
・鑑賞は、漠然と聴かせるのではなく視点を与えて鑑賞させることが重要。
担当 板坂(西根小)
大宮(陵南中)

平成22年度
4地区・
高等学校研究協議会
あしあと

置賜地区

【中学校】
期日 平成二十二年九月十四日(火)
会場 川西町立第二中学校
内容 授業研究会
(1) 川西町立第二中学校 第一学年
「イメージと音楽」
① 指導案から
・題材名「魔王」の鑑賞
・題材の目標
・詩の内容に興味を持ち、場面や登場人物の心情の変化を想像しながら楽曲を鑑賞しようとしている。
・旋律が生み出す雰囲気や歌い方の違いを感じることが出来る。
・曲の構成要素や表現要素と、それらの働きによって生み出される曲想とのかわりや意識しながら楽曲を鑑賞し、曲の特徴や良さを他の人に伝えることができる。
指導について
・本教材で大事にしたいことは詩の内容と音楽を形作っている諸要素とのかかわりを感じながら音楽を味わい、なぜそう感じたのかを根拠を持って述べられるようにさせることである。
・音楽の要素が多岐に渡っているため、様々な要素の説明的・解説的な授業に陥らないように、登場人物の心情に寄り添って、表現の工夫を探っていく授業を行っていく。
・生徒一人一人が持ったイメージを共有し合ったり他の人への紹介文を書いたりすることでお互いの考えを認め合う態度を身に付けさせたい。
② 事後研究会から
・楽曲を分析的に聴いて

【小学校】
期日 平成二十二年六月二十九日(火)
会場 舟形町立舟形小学校
講師 佐藤栄起氏
内容
・六年生十九名を対象にした器楽指導
・参加者による器楽実技研修
○音楽科実技研修会
期日 平成二十二年六月二十九日(火)
会場 舟形町立舟形小学校
講師 佐藤栄起氏
内容
・六年生十九名を対象にした器楽指導
・参加者による器楽実技研修
○音楽科実技研修会
期日 平成二十二年六月二十九日(火)
会場 舟形町立舟形小学校
講師 佐藤栄起氏
内容
・六年生十九名を対象にした器楽指導
・参加者による器楽実技研修

最北地区

【中学校】
期日 平成二十二年十二月三日(金)
会場 新庄市立新庄中学校
内容 研究授業
(1) 研究授業
・授業者 柏倉英司教諭
・題材名 「混声三部合唱の響き」
・教材名 「COSMOS」
・学年 一年
男女共に歌うことの好きな生徒が多い二十八名の学級の授業。課題をもってパート練習を進めていた。お互いにアドバイスをしなが自分のパートを自信をもって歌えるように練習をすることができていた。
(2) 研究協議
・指導助言 渋谷滋己氏
(山形県音楽教育連盟会長
南陽市立漆山小学校校長)
新学習指導要領完全実施にあたって、教科目標と評価の観点及び趣旨等について指導をいただいた。

【中学校】
期日 平成二十二年十一月九日(火)
会場 舟形町立舟形中学校
講師 大谷雅美氏
内容
・筆の指導法と実技研修
小・中ともに、参加者の先生方の関心が高く、自己の実技の向上はもちろん、児童生徒への指導のポイントなども明確にすることができ、充実した研修会となった。
担当 福井(沼田小)



【中学校】
期日 平成二十二年十一月九日(火)
会場 舟形町立舟形中学校
講師 大谷雅美氏
内容
・筆の指導法と実技研修
小・中ともに、参加者の先生方の関心が高く、自己の実技の向上はもちろん、児童生徒への指導のポイントなども明確にすることができ、充実した研修会となった。
担当 福井(沼田小)

【中学校】
期日 平成二十二年十一月九日(火)
会場 舟形町立舟形中学校
講師 大谷雅美氏
内容
・筆の指導法と実技研修
小・中ともに、参加者の先生方の関心が高く、自己の実技の向上はもちろん、児童生徒への指導のポイントなども明確にすることができ、充実した研修会となった。
担当 福井(沼田小)

【中学校】
期日 平成二十二年十一月九日(火)
会場 舟形町立舟形中学校
講師 大谷雅美氏
内容
・筆の指導法と実技研修
小・中ともに、参加者の先生方の関心が高く、自己の実技の向上はもちろん、児童生徒への指導のポイントなども明確にすることができ、充実した研修会となった。
担当 福井(沼田小)

高等学校

期日 平成二十二年六月十七、十八日

会場 山形県立村山農業高等学校 他

内容

(1) 研究授業

山形県立村山農業高等学校

小野智子教諭「子守うたを味わおう」

園芸サイエンス科二年生の選択者二十七名による音楽Ⅱの授業を公開した。時代や社会情勢を越え、言葉や宗教が違ってても、子に対する思いは変わらない。「愛」から生まれた子守歌より、「ブラームスの子守歌」と日本古来の律音階を思わせる「童神」を教材にして授業を展開させた。生徒たちは、導入の校歌歌唱から、ドイツ語の発音習得と歌詞の意味把握、曲想を活かした歌唱表現などを意欲的に行っていた。普段から高いモチベーションで活動している様子を伺うことができた。

(2) 研究演奏

最北地区担当 打楽器アンサンブル

「CAPRICCE」

「クラップ&ストンプ」

最北地区八名の担当者による研究演奏であった。鍵盤打楽器を中心とした高度なアンサンブルと、アドリブや視覚パフォーマンスの要素を加えた楽しいボディ・パーカッションであった。日頃部活動などでも熱心に活動している先生方の、質の高い研究演奏であった。

(3) 講演会

昭和音楽大講師 須藤八汐氏

「授業に活かせるパーカッション」

前半は「打楽器および打楽器音楽」と題し、打楽器の起源、民族音楽や現代音楽と打楽器について講演を頂いた。後半は「リ

ズムトレーニングと打楽器の実践」と題し、会員参加型でリズムトレーニングやボディミュージック、ミニマムミュージック、打楽器を使用したリズム実践などを行った。

(4) 研究発表

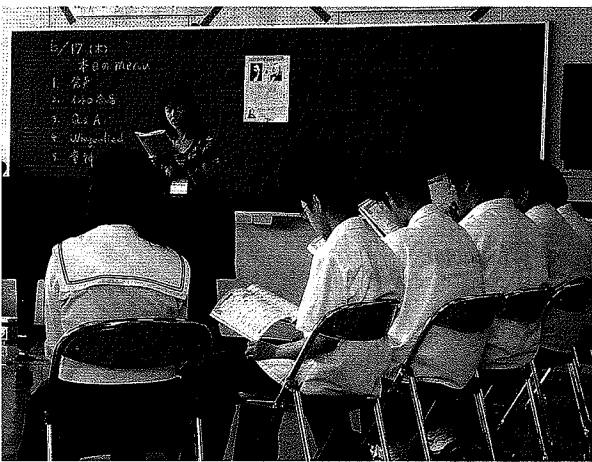
山形県立米沢興譲館高等学校

土井広一教諭

「導入期の授業とサウンドスケープ」

新学習指導要領における「音や音楽への関心を広げさせ主体的に聴く」こと、さらに「その特徴を根拠をもって表現する」ことに重要性を持たせ、授業展開の実践例の報告を行った。授業開始時にはミニマムミュージックやポエトリー・リーディングなどの幅広い音楽の鑑賞と批評を行い、その後音地図作りの学習を進めた。同じ場所においても、感じる音や表現の違いなどがあり、普段あまり自覚しない「音」や「聴く」行為、それを「伝える」難しさを生徒自身実感していたという報告であった。

担当 笹原（庄内農業高校）



県作曲コンクールの流れ

山形県小中高等学校児童生徒作曲コンクールは、今年度で第三十九回を迎えました。課題詞、自由詞のいずれでも応募することができ、課題詞については、これまで、県内各地の作曲コンクール運営委員が担当地区の作品を持ち寄り、その中より選出していました。しかし、今年度より、より多くの児童生徒に作曲コンクール

に興味・関心をもってもらい、いろいろな形で参加することができるよう、課題詞を全県より募集することになりました。初年度にもかかわらず、小学校四十七、中学校三十一、高等学校十三の作品の応募があり、その中から、小学校の部二名、中学校・高等学校共通の部三名の作品が選出され、課題詞として紹介されました。

さらに、作曲コンクールには、県内各地より三十八校二百七十四名の応募があり、最優秀賞三名を含む九十三名が入賞しました。

第二次審査にあたって下さった、長谷川勉先生（山形大学地域教育文化学部）、鈴木渉先生（同）、須藤真先生（山形県教育センター）の三名の先生方からは、次のような講評をいただきました。

多数の応募作品があり、意欲的な様子がうかがえました。

・小学校の六年間は発達段階の差が大きいので、来年度からは、上学年、下学年に分けて審査してはどうかという声がありました。それだけ、意欲的な作品が多かつ

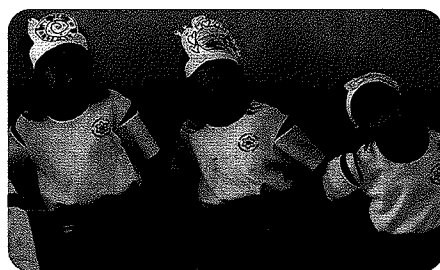
たです。

・中学校では、歌詞とメロディーが最後まで流れ切れない作品がありました。歌詞を読んでメロディーをつけていくというだけではなく、曲全体を通して歌ってみたいと思います。

・高等学校では、たくさん曲を聴いて、曲作りに慣れていく感じの作品が多かったです。さらに、様々なジャンルの表現方法に視野を広げること

で、曲想に幅が出てくると思います。

優秀作品は、山形大学地域教育文化学部音楽科の協力を得て、編曲、演奏され、CD化し、応募した全団体に送る予定です。



あとがき

今年度もカンタービレを発行する季節になりました。六年前は、最北地区で東北大会が行われる前年でした。早いもので、来年度は、東北大会前年を迎え、山形県プレ大会となります。各地区の協議会は二年間開催されませんので、置賜地区を全県挙げて応援しましょう。一月に行われている冬の研修会も二回目は組織化され、各地区の研究実践発表と協議で、充実した研修になっています。私たち音楽教師がいつしよになって、もっと研修し、ずっと音楽を愛する子どもを育てていきたいですね。

会報担当 色部（滝山小）

武山（山南小）

小島（山八中）